

2. 寄稿：地球を一つにする一元融合（二宮尊徳研究家、ソニー井深伝承者 田村慎吾）

1970年の大阪万博は、日本の高度成長の引き金を引いた起爆弾であった。その25年前、25歳前後の男性は戦死し、青年人口が半減した廃墟で、おかみさん力が有り合わせの料理で子育てをし、不屈の団結で復興。15年後、1964年の東京オリンピックでは金メダルを量産し、大阪万博以降一気にGDPを上げ、世界の一等国に登り詰めたので起爆弾と申し上げた。万博ではケンタッキーフライドチキンの実験、マクドナルドハンバーガーの実験、日清製粉のカップヌードルの実験など、試し刷りの事業実験がその後のイノベーションを誘発し、世界的企業の林立が始まった。

第一次世界大戦後、二度と戦争は止めようとして出来たのが国際連盟（1920年）である。しかし、第二次世界大戦が起きた。そして、再び二度と戦争は止めようとして出来たのが国際連合（1945年）である。現在の世界は、第三次世界大戦の地鳴りが聞こえている。

この機に際し、不思議な旅人が現れた。澤田健一（縄文アイヌ研究家）である。彼には考古学者が見落としてきた視点がある。多くの考古学者は研究対象の遺跡に没頭しているのに対し、澤田は遺跡間の関連性について探究しているのである。その過程の中で、日本の縄文文明は、代表的な四大文明のみならず、南北アメリカを照らしてみると、その全体にわたって、土器や、壁画の類似性から縄文遺跡が関連していることを発見、むしろ世界の文明の開発的役割を縄文人が行ったことを証明する作業を続けている。

現在、日本人の器用、工夫、協働、品質、信用の気質、その総体としてのモラルが世界的に注目されており、日本人の気質に触れたいインバウンドが、中国人、韓国人を含め殺到してきている。その根源を辿れば、一万年も戦争のなかった縄文時代にたどり着く。そこで、全地球で縄文に縁のある気質を持った人々が手を繋ぎ世界平和を広める必然性があると考え、一部の友人たちとその準備を始めた次第である。特に、世界平和をつくるキーワードが「一元融合」と考える。

例えば、禅僧が描く「一元相」と呼ばれる一筆書きがその一つである。良し悪しで悩むことを煩惱と呼ぶが、仏教の目的は煩惱を消すことである。博多の禅僧仙崖の歌「よしあしのなかをながるしみずかな」は秀逸である。煩惱の塊が戦争である。

二宮尊徳も百姓の登用を嫌う上役のイジメに合い、苦しんだ末、成田山新勝寺で断食し、満願の日、不動明王の炎で煩惱が焼かれ悟りを開いた。その心境を歌にあらわした。「打つ心あれば打たるる世の中よ打たぬ心に打たるるはなし」である。ロシアが悪いと言えば、ロシアはお前こそ悪いとなる。この良し悪しの二元論が事態を悪くするのである。両方あって初めて何かが生まれるという一元化が一元融合である。



写真1 二宮尊徳「一元融合」開眼の地 成田山新勝寺

秀逸な言葉を吐いた一人が周恩来である。日米と中国が真っ二つに割れた時、周恩来は「求同存異」と書いて、ニクソンや田中角栄と握手した。お互い国民の幸せを求める気持ちは同じだ。しかし異なる主義が存在する。それで良いではないかという意味である。周恩来は友好の印としてパンダを日本へ送った。

私の上司でもあったソニー創業者の井深大は、全く人を差別することをせず、他社を敵と呼ぶことを禁じ、戦略も禁句であった。世界初のポケットブルラジオを発明した時、大阪のなだ万に松下幸之助、早川徳治、井植歳男を接待し、礼を尽くして製品を紹介し、特許フリー、回路図提供、特殊部品手配仲介、工場見学歓迎を申し出て一堂を感激させた。この全てが一円融合である。



左から 早川徳治、盛田昭夫、松下幸之助、一人おいて井深大
写真2 ポケットブルラジオTR-55の説明を受ける同業者たち

私が澤田に注目しているのは、縄文遺跡の遺物と類似性があり、その子孫の文化風習に類似性があれば縄文地帯 (Johmonic zone) と呼んで国境を超えた平和会議を作ることである。概ね、赤道と北緯 55 度の間である。争わず、大自然に沿う心豊かなジョーモニズムを現代に活かす研究会を「クラブジョーモニア」と称し、参加者募集を始めた。

例えば、貸借対照表も数字だけの管理に心を入れると、負債を天借金、資産を天返金と当てて監査すれば道徳性が生まれる。モノづくりも市場を戦場ととらえず、温泉型モノづくりと置くと平和になる。尊徳の言に、沸かし湯はその都度沸かし、コストもかかるが、温泉は自然と人が集まるという言葉がある。このような魅力追求が温泉型モノづくりである。このように、拝金主義の金縛りを断ち切り、心の交流が生まれるのが一円融合社会であり、その促進プラットフォームがクラブジョーモニアである。

[著者略歴] 茨城県生まれ、東京蒲田育ち。早稲田大学理工学部卒
ソニー38年(設計、マーケティング、事業部長)。中小企業顧問30社、
大学教員(北大、慶應義塾、早大、湘北短期大学)、日本創造学会元理事長。
二宮尊徳研究家、ソニー井深伝承者

著書:「実践的MOTのススメ」「世界のS実録創業物語」「二宮尊徳と創造経営」

